

プロジェクト演習「農業とAI」-1 (3)

インタビューの技術

清風情報工科学院 at 大阪阿倍野区

講師 飯箸泰宏

本日は、集中ゼミの初日ですが、午後には、早速「現場百回」の実践に出かけます。

毎日暑い日が続きますが、今日も明日も、明後日も明々後日も現場百回に出かけます。

現場に行って漫然と見てきても、よくわからないと思います。現場のキーマンにインタビューをしてみましょう。

今日訪問するところは愛甲農業専門学校とBIO-RALです。

愛甲農業専門学校には植物工場があって、生徒の教育に役立っています。これを中心に見に行きたいと思います。

BIO-RALは健康志向の食品スーパーで、無農薬野菜や自然食品がそろっています。

手元には資料が配られていると思いますが、それぞれの所在地の地図や各ホームページのURLが書かれています。

皆さんはインタビューできますか？

飯箸先生は、ある出版社に10年勤務して、その間、1日に3人以上の方にインタビューをする日常を送ったインタビューのベテランです。

インタビューにはさまざまなおコツがありますが、簡単で最も効果的な方法だけに絞ってお教えします。

これを知っていれば、インタビューでは必ず80点が取れるという秘策です。

1. 準備（準備50%、現場20%、まとめ30%）

- 1) インタビューは、現場がすべてではない。
- 2) 準備50%、現場20%、まとめ30%

準備

- ・相手についての事前調査を行う。
基礎理論と相手の実績を事前勉強しなければ失礼
- ・ホームページ/著書などを読む。
相手の略歴や歴史はしっかり覚える。
- ・第三者の紹介・批評・評判を読む。
- ・質問事項を箇条書きにしてゆく。
最低5つ、最大に制限なし。
- ・エア・インタビュー（事前練習）は必ずやる。
- ・クリップボード。
- ・メモ用紙（A4コピー用紙4つ切）を用意。
- ・スマホまたはペン型リーダーを用意。

「インタビュー」と聞くと、相手の方と顔を突き合わせてお話しするイメージしか思い浮かばないでしょうが、そんな場面はインタビューという全体の仕事の中では一部にすぎません。

準備50%、現場20%、まとめ30%くらいの力の配分になると覚えてください。準備では、何をするかというと、ここに書かれている通りですが、

①相手についての事前調査を行う。

基礎理論と相手の実績を事前勉強しなければ失礼

- ・ホームページ/著書などを読む。
- ・相手の略歴や歴史はしっかり覚える。
- ・第三者の紹介・批評・評判を読む。

②質問事項を箇条書きにしてゆく。

最低5つ、最大に制限なし。

③エア・インタビュー（事前練習）は必ずやる。

④クリップボードを忘れないように。

⑤メモ用紙（A4コピー用紙4つ切）を用意。（グループワークを想定するとA6くらいがちょうどよい。一人でやるときは名刺大91ミリ×55ミリまたはB8判などが便利）

⑥スマホまたはペン型リーダーを用意。

メモ用紙は、今、事務局が用意してくれています。

実際の作業は、スライドをあと数枚済ませてから取り掛かります。

少し我慢して、先生の説明を聞いてください。

2. 現場（準備50%、現場20%、まとめ30%）

- 1) インタビューは、現場がすべてではない。
- 2) 準備50%、現場20%、まとめ30%

準備

- ・相手についての事前調査を行う。
基礎理論と相手の実績を事前勉強しなければ失礼
- ・ホームページ/著書などを読む。
相手の略歴や歴史はしっかり覚える。
第三者の紹介・批評・評判を読む。
- ・質問事項を箇条書きにしてゆく。
最低5つ、最大に制限なし。
- ・エア・インタビュー（事前練習）は必ずやる。
- ・クリップボード。
- ・メモ用紙（A4コピー用紙4つ切）を用意。
- ・スマホまたはペン型リーダーを用意。

現場

- ・失礼のないように礼儀正しく。
- ・知らないふりをして教え請う（「いきなりインタビュー」のふりをする）
- ・相手の略歴や歴史はお尋ねして事前調査と違っていたら、質問する。
- ・肯定的なあいづちとうなづきたくさん。
- ・聞くことに抜けがないか、事前箇条書きでチェックする。
- ・録音とメモの両方を忘れずに。
- ・取材メモはカードに、そのままカードワークで整理

インタビューの現場に行き注意しなければならないのは、右側のスライドに書いた通りです。

①失礼のないように礼儀正しく。

当たり前のことですが、あくまでも自分たちは下、愛他は上ですから、尊敬の念をもってお伺いするようにしましょう。

②知らないふりをして教え請う（「いきなりインタビュー」のふりをする）

これから事前調査しますから、皆さんはある程度の前提知識をもって聞くことになります。しかし、あくまでも理解できたことは一知半解にすぎませんね。知っているという相手は穴してくれなくなります。

知っていても知らないふりをして、教えていただくことにしましょう。インタビューが生半可に「知っている」と相手は警戒します。「何も知らない」となんでも話してくれるものです。

③相手の略歴や歴史はお尋ねして事前調査と違っていたら、質問する。

略歴や歴史は、相手が自然と話してくれるものですが、事前に調査したものと異なっていたら質問してみましょう。本人の記憶違いやちょっと飾って言っている（盛っている）ときもあります。

知りえた公式情報が間違っている場合も良くあります（同姓同名の別人や、似た名前の別人と世間が混同している）。

④肯定的なあいづちとうなづきたくさん。

相手がお話ししているとき、黙って睨みつけているようなインタビューが

いますが、それでは相手が話す気を失ってしまいます。肯定的なあいづちとうなづきはたくさんして、相手が気持ちよく話せる雰囲気を作りましょう。

⑤聞くことに抜けがないか、事前箇条書きでチェックする。

質問しながら、事前に作成した失念メモの箇条書きにチェックを入れ、漏れがないかを確認しながら質問しましょう。お話をうかがっているうちに、質問メモにないことも聞きたくなってくるものですが、大変良いことなので、どんどん質問してしまいましょう。

⑥録音とメモの両方を忘れずに。

カードにメモを書きながらインタビューしますが、録音も忘れずにとりましょう。他のことに気が取られて聞き取れなかった相手の言葉があったり、メモを見ても内容が思い出せないお話もあつたりします。録音はそんな時大いに役に立ちます。

⑦取材メモはカードに、そのままカードワークで整理

取材メモは現場を離れてからカードワークで使います。少し内容が異なるものは、違ったメモ用紙に書くようにすると、あとで行うカードワークが楽になります。

(注)

お店や店売所を併設している農家などを訪問した時は、手土産をもっていくことは不要ですが、ほんの少しでいいから買い物をして帰る事です。忙しい相手の時間を拘束してお話をうかがうのですから、そのお礼の気持ちは買い物で示しましょう。

売っているものがないところにうかがうときには、手土産が必要です。

今回は、これらの費用を学校が出してくれるそうですから、安心してください。

3. まとめ作業（準備50%、現場20%、まとめ30%）

- 1) インタビューは、現場がすべてではない。
- 2) 準備50%、現場20%、まとめ30%

準備

- ・相手についての事前調査（基礎理論と相手の実績を礼）
- ・ホームページ/著書など相手の略歴や歴史はしっかり
- ・第三者の紹介・批評・評判
- ・質問事項を箇条書きにし最低5つ、最大に制限なく
- ・エア・インタビュー（専
- ・クリップボード
- ・メモ用紙（A4コピー用紙）
- ・スマホまたはペン型リ

現場

- ・先礼のあいさつに礼儀正しく。お言葉（「いきなりインタビュー」）
- ・お尋ねして事前調査と違っ
- ・なづきたくさん。
- ・いか、事前箇条書きで
- ・おれずに。
- ・そのままカードワークで

まとめ作業

- ・薄板の上にマグネットを使って、全員分のメモを広げて、関連性のあるものは近くに集める。
- ・いろいろな方法があるが、今回はストーリーテリング法を採用します。
- ・相手の略歴や歴史は先頭を書く。
- ・似たカードの山がいくつかできるでしょうから、その山ごとに山の内容を表す「名前」を付けてください。
- ・山同士の関連を見つけて、矢印で結んで、どんな関係かを示す「矢印名」を書き込みます。
- ・最後に、これらを眺めて、全体を1分間スピーチで皆さんに説明します。
- ・追加の質問があったら、電話か再訪する。

見学して、インタビューをしたら、おおむね翌日、みんなでまとめを行います。

①薄板の上にマグネットを使って、全員分のメモを広げて、関連性のあるものは近くに集める。

いざ並べてみるとカードのメモが不適切だったことに気づいて書き直したり、不足しているカードを書き足したりしたくなりますね。そんな時は遠慮なく書き直したり、追加したりしてください。

②カードワークには、いろいろな方法がありますが、今回はストーリーテリング法（物語り法）を採用します。

別の方法には「KJ法」や「樹木法」などがありますが今回は採用しません。特に「樹木法」は渡航がひどく制約されるので、発想豊かな若者が集まった今回のゼミでは役に立ちません。

③相手の略歴や歴史は先頭を書く。

相手の属性は、最も重要な事項ですから、目立つようにしておきます。

④似たカードの山がいくつかできるでしょうから、その山ごとに山の内容を表す「名前」を付けてください。

名前を付けるというのは、人間の基本的な能力で、現代の人工知能にもできない力です。きっと、皆さんは人工知能より優れた能力を発揮します。

⑤山同士の関連を見つけて、矢印で結んで、どんな関係かを示す「矢印名」を書き込みます。

この矢印は、この後に行う1分間スピーチの時に大いに役立ちます。

⑥最後に、これらを眺めて、全体を1分間スピーチで皆さんに説明します。
現場に行かなかった人にもわかるように全体をうまく説明できますか？
初めての人でも2-3回やってみるとうまくできるようになりますよ。

⑦追加の質問があったら、電話か再訪しましょう。

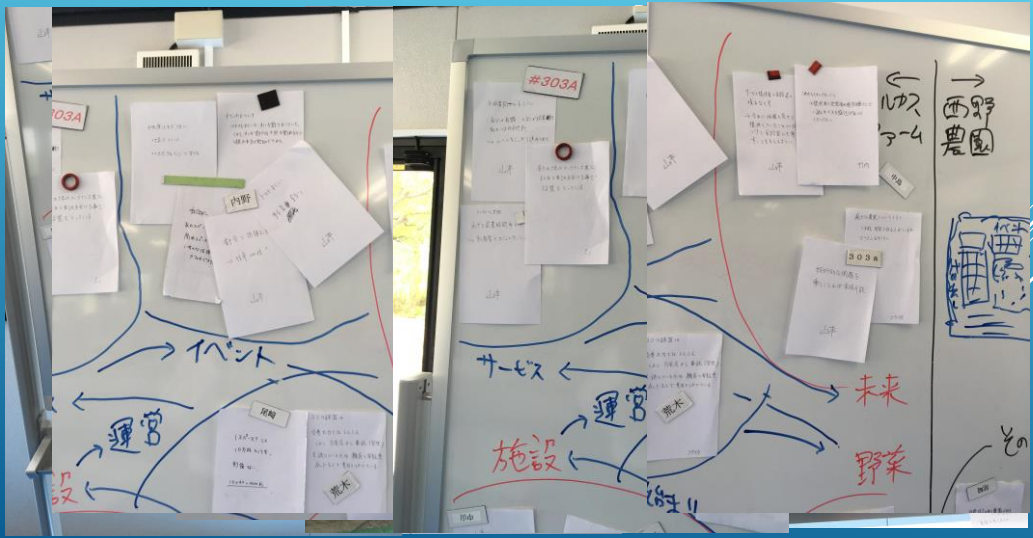
一度の訪問ですべてが分かることはまれです。

このゼミでは複数人の眼と耳で聞いてきますから、比較的網羅的に聞き取れるとは思いますが、それでも聞き漏らしたこと、聞いたけれど真意がつかめなかったことなど追加でお聞きしたいことが出てくるものです。

そんな時は、遠慮なく、電話でお聞きするか、電話でお聞きにくいことならアポイントを取って再訪して聞いてください。

「現場百回」です。

4. カードワークのイメージ



白版上で行うカードワークの例です。
一緒に訪問インタビューして仲間がワイワイと相談しながら白版でカードワークを行って1分間スピーチを行った跡の様子です。

5. 準備開始

準備

- ・相手についての事前調査を行う。
基礎理論と相手の実績を事前勉強しなければ失礼
- ・ホームページ/著書などを読む。
相手の略歴や歴史はしっかり覚える。
第三者の紹介・批評・評判を読む。
- ・質問事項を箇条書きにしてゆく。
最低5つ、最大に制限なし。
- ・エア・インタビュー（事前練習）は必ずやる。
- ・クリップボード。
- ・メモ用紙（A4コピー用紙4つ切）を用意。
- ・スマホまたはペン型リーダーを用意。

インタビューの仕方の説明はこれで終わりです。

では、午後の現場訪問に備えて、訪問先の「愛甲農業専門学校」「BIO-RAL」です。

事前にやるべきことは何でしたでしょうか。

そうです。インタビュー先のことを事前に調べることでしたね。

手元には、訪問地機への地図や、相手先の簡単な説明とホームページのURLが書いてありますね。

今日は、図書館に行ったりする時間がありませんから、ホームページだけでいいでしょう。

相手先を調べてみてください。調べる内容は、「1. 準備（準備50%、現場20%、まとめ30%）」に書いてあります。

調べて質問したいことを5つ以上（上限なし）、メモカードに書き出しましょう。

書き出し終わったら、エアインタビューです。

二人ずつ組みになって、交代で相手役になって質問の練習をしてみましょう。相手役になった人はインタビュアーが何を聞きたいと思っているのか分かればOK、分からない質問だったら、どんな風に聞けばあいいかをアドバイスします。

それでは、調べ始めます。

もう、質問を書き始めた人もいますね。

・・・

だいたいの方が質問補書き出すことができましたね。まだ、3つしか質問がないという人がいますが、ここでいったん打ち切ります。
エアインタビューに進みましょう。

・・・

そろそろエアインタビューも終わりだね。

終わり

エアインタビューは終わったようですね。皆さん、大丈夫かな。自信が持てましたか。
不安だ〜？ あとは若さで押し切ろう。若者はちょっとくらい失敗しても、素直に謝って訂正すれば、大人は許してくれるもんだよ。
ええ〜っと、お昼の時間になったから、食事にしよう。
12時45分に、玄関前に集合するぞ。